



全日本私塾教育ネットワーク
私塾ネット広報

第70号

(2020年7月号)



一粒の苺こぼれて卓の上（直人）



全日本私塾教育ネットワーク

理事長 仲野十和田 (ナカジユク)
TEL: 03-3963-5572

<https://shijuku.net>

センター事務局 中村 康彦 (中村学院)
〒210-0817 神奈川県川崎市川崎区大師
本町3-13 中村学院内
TEL: 044-266-0388

| 理事長コラム



2020年4月19日に予定していた、私塾ネット20周年記念大会は延期となりました。10周年に引き続き節目の年に2度目の延期です。10周年は2011年の東日本大震災の直後で、日本全体が自粛ムードとなり中止を決定しましたが、それでも集まることは可能だったので、そのまま会場（浅草ビューホテル）を使って、東北に何ができるかを考える会を行いました。しかし、今回は集まることすら許される状態ではなく、さらに日本全体を巻き込む禍いになりました。

僭越ながら、この間の自塾の行動を振り返ってみたいと思います。まずは、3月初旬の自粛要請から大手の塾が大体2週間に目処に、休校する塾がでした。この頃は、マスクが品薄となり、知り合いの薬局に頼んでも、1箱手に入れるのがやっとでしたが、たまたま1000枚単位（高額でした）で手に入ることができ、花粉で悩んでいるご家庭を中心に無料配布を企画したところ、即座に申し込みがあり、とても喜んでいただきました。その後、4月8日からの緊急事態宣言を受けて、当方もゴールデンウイークまでの予定で通塾を一切なしにし、リモート授業に切り替えました。教室の広さからしてライブ授業も可能でしたが、どこまで続くかわからい状態だったので、生徒の安全とリモートの経験値を上げておきたいという思いがありました。スタッフには「やれることは全てやって欲しい」と依頼しました。ZOOMによる双方向授業で、家庭の通信回線の問題から始まり、授業の管理など課題はありましたが、多少の不手際もご家庭が温かく見守ってくれたと思います。4月の後半になると、ある自営業のご家庭で収入がなくなり、子供を塾に行かせられないという連絡があり、急遽、「月謝の減免」対策を行いました。この危機に、将来ある子供たちの教育の機会を奪いたくなかったからです。ご家庭には私がZOOMなどで面接をし、無条件に申し出のパーセントの減免（とりあえず2ヶ月分）を行いました。また、「ナカジュクの窓」と称し、4月5月で計4回のZOOM保護者会を行いました。どちらも普段お話ができないご家庭と直接繋がることができ、貴重な体験をさせていただきました。

GWには小学4年～中3まで、教科書別のZOOM授業を無料で行いました。有志が1つの教室に集まり部屋に分かれて発信しましたが、時間割りを組んだり、教科書を入手したりするなど、結構大変でした。私も6日間続けて授業を行ないましたが、ZOOMの利便性と問題点を知ることができたこと、そして、画面に向かい続けることがとても疲れることもあることも体験し、その後スタッフを労うことにも繋がったので、この経験はとても大きかったと思います。

GW明けも、緊急事態宣言が続いたので、引き続き教科書別リモート授業と午後からは中3生対象の受験対策授業（有料）を行ったところ、予想以上の申し込みがありました。このよう

仲野十和田（ナカジュク・東京都）

な時の提案でしたので、少々躊躇はしましたが、逆にご家庭への安心感に繋がったようです。5月からは毎朝20分、「ZOOM朝礼」も始めました。冒頭に5分ほど我々が話をし、それについて2人1組のブレイクルームに分かれ、話についての感想や、その日の行動予定などについて語らいをしてもらいます。もちろん私たちも交わりますが、小学生と高校生が一緒になるなど、塾ならではの貴重な体験ができたと思います。また、外部のゲストも容易に呼ぶことができ、充実した内容になったと思います。



4月に予定していた中3生対象の「入試説明会」もZOOMで行いましたが、会場準備などもいらないので、2回に分けてできたので、例年より参加率が高かったです。また、毎年5月に行われるはずの、サツマイモの苗植え会は今年は中止にせざるを負えず、10月の「収穫祭」で生徒たちの喜ぶ顔を想像しながら、スタッフ有志で行いました。

まだ、終息はしていないので、今後どうなっていくかわかりませんが、今こそ子供たちには、自分で判断し動く力を付けて欲しいと思っています。のために、私たちがどう動くか？が問われているような気がします。私はこの間ほとんど引きこもり状態で、晴耕雨読の状態でしたが、いろいろなことが考えられた貴重な時間でした。

最後になりましたが、このような状況の中、規約に合わせてあと2年、理事長職を継続させていただくことになりました。まだ、身動きは取れませんが、一生懸命職務を遂行させていただきたいと思っております。よろしくお願い申し上げます。



| エリア通信



**エリア東北 扇野 昭弘
(学習塾 TRM 登龍門・青森県)**

当塾では、緊急事態宣言が出たものの、入試まで10日間ほどあったので、青森市内で新型コロナが出るまではと、消毒・マスクに心掛け、

通常通りの直前講習会・春期講習会を決行致しました。

しかしながら、マスク・ペーパータオル・トイレットペーパーが手に入らず、生徒たちに「ペーパータオルとトイレットペーパーがなくなったら、休塾にするか!」と言ったところ、「お母さんが、買い溜めしているのを塾に持つて行けって!!」ということで、卒業までしっかりと通常通りに続けることができました。下記の写真は、ゴールデンウィーク時、曆通りに休塾したのですが、20万円の支援金請求時に必要と聞いていたので、玄関先に張り出したものです。

ただ、100mを越える規定があったため申請は断念しました。まあ、本当の自粛をしたわけではないので、いいのですが。

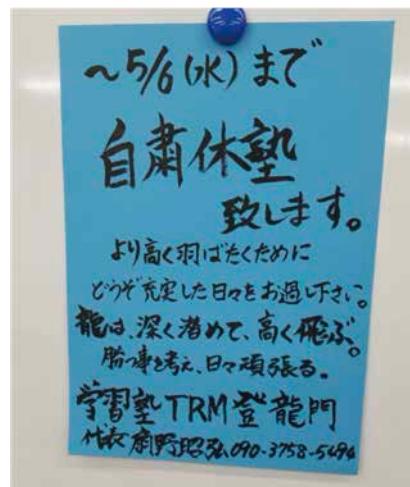
当塾としては、英会話の部門ではオンラインの授業も考えましたが、青森市では、ほとんどの小・中学校がオンライン授業をしているものの、最初は面白かったけど、眠い、頭に入ってこない、という生徒の評判に、今は塾に来ることができるから、良いか!!となっていることに、他塾が頑張っているのに、申し訳ないと反省するばかりです。

毎年実施している、塾に180時間以上いるためのチャレンジ、「オールナイトで夏の宿題を終わらせよう・オールナイトで授業を受けてみよう」の企画は、断念しないといけないと思いながらも、生徒達からの「今年はやらないのー!、塾の予定も自粛なのー?」の言葉に、新型コロナが身近に出ない間はいいか!と心が揺れている自分がいます。

何はともあれ、春からの新規の入塾の生徒・問い合わせは、ほとんどなく、小・中学校では、1学期の終了式・夏休み・2学期の始業式が発表させていませんので、夏の講習会の予定も立てることができずに困っています。

とにかく、塾生の健康と学力を第一に考え、できるだけ例年通りのできることをしてあげたいと思うばかりです。

最後になりましたが、皆様との再会を楽しみに、日々精進して参りたいと思っています。



**エリア関東代表 渡辺 浩
(渡辺塾・東京都)**

今回のコロナ禍で学んだことが3つあります。1つ目は防災意識が足りなかったということです。普段から自然災害には気をつけ、台風や地震

などの自然災害があった時にはこのように対処いたしますという防災マップ的なものは入塾の際に保護者にはご説明申し上げているのですが、まさかインフルエンザを越える疫病が、日本のみならず、こんなにも世界中に感染する事は流石に予測できませんでした。よく言われることではありますか、泥棒を見て縄をなうようでは遅いんですね。常日頃、さらに防災意識の視野を広げる必要がある事を学びました。なにせ、学習塾は大切な子どもたちの命も預かっているわけですから。現在、東京では緊急事態宣言も東京アラートも解除され、コロナ前の日常を取り戻そうと人が動き始めています。残念ながら毎日50人近くの新規感染者が出ております。しかし、学習塾内でクラスターは絶対に発生させてはならないと考え、自塾では講師と生徒の机の間にビニールシートを天井から吊るし、飛沫感染を防ぐよう取り組みました。まだまだ感染防止に努める必要がありますので、感染防止で出来る事は何でもやっていこうと思います。

2つ目はICTに関する基礎知識を始め、世の中がどれだけ進んでいて、かつ自塾がいかに遅れているかということを痛感いたしました。3月に学校が休校になりましたが、学習塾はほとんどが通常に子どもたちを通塾させていたように記憶しています。しかし、段々と日が経つにつれ、外出することへの危機感が募り、4月には緊急事態宣言が発出されました。それに伴い、学習塾も通塾をストップさせ、Zoom等を用いたオンラインによるリモート授業を余儀なくされました。自塾の例を申し上げますと、初めはZoomという言葉自体知らない保護者の方が多く、Web会議システムについてご説明申し上げ、全て家庭にZoomをインストールしていただく事から始めました。中に安全を危惧されるご家庭も有りましたが、そこは丁寧にご説明申しあげ最終的にはご理解いただきました。

各家庭のネット環境も幸い心配されたような「Wi-Fiがない」「タブレットなどのネット機器がない」などの不具合はなく、スムーズに繋がる事が出来ました。ただ、いきなりZoomによるライブ授業は抵抗があると考え、映像授業を無料で配信し、週1回Zoomで質問対応するという形から始めました。結果、生徒さんはリモートにも慣れ始め、小学生にはオンライン工作教室などのイベントも取り入れる事で抵抗感をなくしました。5月に入り緊急事態宣言が延長され、5月から正式にオンライン授業に切り替えましたが、不平や不満は一件も出ませんでした。6月になり、学校も再開され、自塾も徐々に通塾形式に戻し始めましたが、Zoomによるリモート授業は今後来るであろう

う緊急事態に備え、継続していくと考えております。また、Web会議システムをはじめ、様々なツールを活用し、今までのICTへの不勉強を反省し、上手に活用していきたいと思います。

3つ目はこのリモート授業を通じて実感したことですが、日々我々が行っている授業は正に『五感』を使って授業をしているのだということです。今までそこまで意識した事は有りませんでしたが、タブレットの画面だけで授業のやりとりをしていると、恐らく使われていた先生方は感じた事だとは思うのですが、物凄く疲れます。いつも以上に気を使い、常に「見えてるか」「聞こえているか」を確認し、沈黙を避けるために解説時間が長くなるといった形の授業が続きました。このような形の授業に対して生徒さんどう感じたでしょう。効率を重視する生徒さんは渡りに船でしたよね。いわゆる無駄な時間が省かれるわけですから物凄く便利に感じたと思われます。また、面倒くさがりな生徒さんはどうでしょう。こういった生徒さんも、「塾に通わなくてよい」「着替えなくてよい」「授業中に飲んだり食べたりできる」なんていう面だけで好んで使っていた生徒さんもいるでしょう。普段からあまりやる気が感じられない生徒さんに至っては、途中で画面が消えたり、又は意図的に消したりと、塾として対応するのに一苦労されたと思われます。今、通塾形式に戻り、対面式の授業が再開されて改めて思う事は、タブレットの画面では確認できなかった生徒の表情や所作が直接確認できますし、指導した内容の確認のためのテストをする事もできます。演習をさせ、生徒がどこを見ているか、どこでペンが止まるかも確認できます。目の前にいる空気感も感じます。こういった五感を駆使し授業が出来る事の有難さを再確認し、来るべき第二波・第三波に備え、生徒さんの学びの手を止めないよう学習塾としてしっかりとサポートしていきたいです。



渡辺塾
教室風景



**エリア中国代表 西本雅明
(パワーゼミ西本)**

皆さまお元気でしょうか?

今年は寒い経験もないまま冬が終わり、さわやかな春も知らず、急に夏がやってきた感じですね。あつという間に1年の半分が過ぎてしまって、生徒募集も記憶なく、ステイホームでボケが加速されたような気分です。後半はとにかく頑張らなければ、来年は生きていけないのでと、思っています。

自粛要請が出て以来、出かけていく会議は一度もありませんでしたが、その代わりに「ZOOM」を使用した会議が普段以上に頻繁に行われました。はじめは「ZOOMとは、どんなものなのか?」状態の中で、「ZOOM」を勉強するつもりで会議に参加していました。しかしながら必要に迫られ、お叱りを受けるかもしれませんのが「エイヤッ!」っと、清水の舞台から飛び降りるつもりで未習熟の「ZOOM」を使い「とりあえずやっちゃえ」と授業を始めました。やり始めると意外と面白く「飲み会もできちゃう?」やら、「孫に会える」やら「社内会議も気兼ねなくやれちゃう」ようになり、調子に乗りすぎてクタクタになりました。周りの塾も同じようなリモート学習をし始めたので、差別化を図るためにには、工夫をしなければなりません。おまけにモニターの向こうには保護者の影が見え隠れして、「授業参観」を意識すると、ますますクタクタになります。個別指導では威力を発揮できたように思います。集団授業では生徒の理解度を量りかねることもありました。結果として職員の力量とアイデアの差が大きく出たように思います。「急け者はどんどん怠ける。」「頑張り屋さんはどんどん頑張ってクタクタになる。」という感じです。6月に入ると普段の生活に戻りましたが、「ZOOM」を使う授業を、これからも使う機会はあると思いますので、忘れないように準備をしておきたいと思います。

私塾ネット中国支部の7月定例会のテーマは「ウィズ コロナ」です。「学習塾としてどのようにコロナ禍を乗り切るか?」をテーマに、会員の皆様からアイデアを頂戴したいと考えています。

広島県内の公立高校は今年度から1年生にパソコンを持たせる予定の学校が多く、自粛期間中に大なり小なりリモート学習に使用したようです。しかし県が採用したアプリは問題が多く、機能しなかった学校が大半のようでした。ユーチューブで授業を配信した学校もあったようです。教職員が急きょ必死で作り上げた授業でしたが、生徒たちには不評でした。ユーチューブのような一方的な配信では短くないと集中力が続かないようです。私学の中には休校にせず、リモート学習でカリキュラムを消化した学校もありました。自粛中は授業のある学校や休校になった学校など様々存在しましたので、その点で授

業がやりにくかったです。とにかくこの自粛要請の中で、IT化が遅れていた学習塾も、仕方なくIT化が進んだようです。塾もテレワークができるんだということが分かり、教室は要らないなあと感じた瞬間さえありました。テレワーク中の急げ者職員の中には、髪ぼうぼうで髪の毛は寝ぐせで逆立った状態でモニターに映っている者がいて、笑ってしまいました。

7月の中国支部定例会では会員から、どのようなお話を伺えるのかをとても楽しみにしています。



エリア四国代表 近藤 誠介 (文化の森スクール・徳島県)

コロナ禍でみえた、既存の教育の限界

“緊急時には、良き人はより良きことを為し、悪しき人は、より悪しき行いをする”らしい。この度の新型コロナの事態で、そのことがまざまざと明らかになっています。端的に言えば、人の本性が露顕してくるということでしょう。日本の最高学府といわれるものを卒業している人達の無能さ、そしてまた、日本の後進性が浮かびあがってきました。我が徳島県は、知事も市長も東大法学部出身です。今までの教育の在り方、知の在り方が問われているのです。恐らく彼らは知識も豊富で、情報処理も優れているのでしょう。では、一体何が欠けているのでしょうか。今指導者達は、“教養”が感じられないということです。

では、“教養”とはなんでしょう。大学に、教養部があったのですが、1991年、大学審議会が「大学設置基準の大綱化」を文部大臣に答申したこと、大学の教養部がどんどん廃止されてきました。教養教育より専門教育の方が大事ということなのでしょう。個人的には、教養のベースのない、すぐ役に立つような教育しか行わないのなら、それは大学とは言えないと思うのですが。それはさておき、教養にはやはり知識がとても大切です。多くの本に触れ、多様な考え方を知るべきです。そしてそのことで、自分をより大きな座標系に位置付けることができます。この世には、自分を超えた価値があるとわかり、自己を相対化して捉えるのです。それが単なる知識を超えた、教養といえるものではないでしょうか。

哲学者の村上陽一郎氏のことばです。『私にとって教養という言葉の持っているぎりぎりのものは、人間としてのモラルです。教養という言葉を揶揄するときの常套句に「理性と教養が邪魔をして」というのがありますね。でも、慎みを忘れそうになったときに、「理性」と「教養」とが邪魔をしてくれなければ、それは人間じゃない、とさえ言えるのです。』

また、歴史学者の阿部謹也氏は、『「自分が社会の中でどのような位置にあり、社会のためになにができるかを知っている状態、あるいはそれを知ろうと努力している状況」を「教養」があるというのである。』と述べています。

高等教育を受けているにもかかわらず、理性と教養が邪魔をしない多くの人達。社会のために何かすべきなのに、自分の立場しか考えない人達。教育って、一体、何なのでしょう。大学、いや、中学や高校で何を学んできたのでしょうか。それとも、政治や行政の組織の中では、だんだん腐ってきててしまうのでしょうか。いずれにしても、このコロナ禍は、既存の価値観を再考すべきという、天の啓示では。教育とは、本来、生徒達の狭い「既成概念」を、ぶっ壊してやることです。そういう意味でも、広い視野をつくる、教養が欠かせません。コロナ禍の対応をみても、今の学校教育では、それが無理なのは明らか。塾にこそ、次の若者を育てられる場があるのではないかでしょうか。

ところで、9月入学、入試日程、夏休みの短縮等について生徒達はどう考えているのでしょうか。教育委員会や学校にアンケートをとったという話はききますが、生徒の意見をきいたというのは余り耳にしません。そんなに、大人って、かしこいの。子どもの権利条約には、子どもの意見表明権というのがあります。個々の考えを大切にするという教育がなされなければ、民主主義は成り立ちません。

文科省推奨のアクティブラーニングって、何？

NEW!

新入会塾紹介

エリア中国 石倉朋樹（塾まなび 塾長・広島県）

この度、私塾ネット中国へ入会いたしました「塾まなび」石倉朋樹と申します。

福山市明王台と水呑町に教室を設けて小学生、中学生、高校生を対象にした学習塾を経営しています。創業は平成18年、今年で15年目です。



まずは、開設したばかりの水呑校が地域に根差した塾となり、安定的に運営していくことを考えています。そのためには、地域の方々に知りたいだけるような活動などを通じて認知度を上げ、塾としての良質な教育サービスを提供することで地域の方々に認められるように小さな努力をコツコツと続けていきます。これは生徒に対して話していることと同じですね。

そして、希望する学校への進学、地域の子どもの学習意欲の向上、なにより未来の福山を背負って立つ未来の大人たちに向けて前向きに明るくがんばることの楽しさを教えていきたいと考えています。

また、当塾では、新型コロナウイルスの影響により5月に休校を余儀なくされました。今後は、こうした事態に備えてよりオンライン授業の質の向上や教室環境の整備などに取り組み、保護者のニーズにあった塾運営を行っていく計画です。こうした取り組みを行う際に、私塾ネットの諸先生方のお話を伺うことができれば、大変ありがたいと思っています。これからどうぞよろしくお願いします。

特集・コロナ禍と塾

①当塾の取り組み

エリア東北 柿崎 純（個別指導 Axis 観光通り校）

1. はじめに

新型コロナウイルス感染症(COVID-19、以下コロナと表記)の拡大防止のため、青森県内の学校も御多分に洩れず、3月2日から5月23日までの間、臨時休校や分散登校の措置を講じました。学校の動きを見ながら、当校でも様々な対応を行っています。これから時系列で説明します。

2. コロナを他人事として捉えていた3月上旬から中旬まで

コロナの感染者が日本で初めて確認された日は、令和2年1月16日です。この時点での当校は、コロナを他人事のように捉えていました。青森県内ではまだ、発生していないから大丈夫だろうと。そのため、上述の3月2日からの休校要請にも関わらず、当校では通常通り開校していました。会員生保護者からの要望や、3月10日の青森県立高校入試、3月12日以降の国公立大後期試験が行われることも開校の理由に挙げられます。

また、2月中旬から3月中旬まで、例年通り春期講習の広報活動を行っていました。年々広報活動からの新規問い合わせが減少していたため、今年こそ挽回をしたいという思いが強かったです。しかしながら、コロナ禍が問い合わせの減少に追い打ちをかけたことで、結果的に2月～4月までの問合せ者数は、創業以来最悪の2名となってしまいました。ただ、広報活動をしたことに対しての後悔はしていません。今後の糧としています。

3. コロナを自分事として捉えた3月下旬から4月下旬まで

青森県内で初のコロナ感染者が判明したのは、令和2年3月23日。青森市内での初コロナ感染者判明は、4月3日。ただ、4月3日の段階でも他人事のように捉えていました。その気持ちに変化が生じたのは、すなわち、コロナを自分事として捉えるようになったのは、4月8日です。この日に、某学校が急遽臨時休校となつたのです。その学校は、コロナ感染者の子が在籍すると同時に当校の会員生が在籍する学校であったからです。学校の臨時休校に従い、当校の会員生でその高校に在籍している者全員に対し、自宅待機を命じました。

このことを契機に、石弘之(著)「感染症の世界史」(2018年／角川ソフィア文庫)を購入して、感染症について学習しました。感染症がどのように発生し伝播したかがよく分かりました。そこで、他業種でのコロナ対策を調べながら当校なりのコロナへの対応策を考え、実践することにしました。

4. 現在の当校におけるコロナ対応策

現状、コロナに有効な薬やワクチンがありません。そこで、当校ではマスク着用の義務化や、アルコールによる手指の消毒の徹底、次亜塩素酸ナトリウム液による備品類の消毒を徹底しています。特筆したい対応策としては、個別指導ブース全席と、面談スペース、休憩スペースに飛沫感染防止シートを設置している

ことです。また、授業時や面談時のフィジカルディスタンシング(身体的距離の確保)を心がけています。これらの対応を確実に行うことで、当校に対する安心感を示すことができればと思います。

エリア関東 宮澤 歩（秀英ゼミナール SS 教室）

新型コロナウイルス感染症対策のために3月から一部の自治体を除き学校が一斉休校になりました。それに合わせるようにして私たち塾もこの社会からの要請にどう対応するかという選択を迫られました。当初のポイントとしては、対面授業を続けるのか、学校と同様に休校にすべきなのか。月謝等の収入の確保のためには授業を続けざるを得ないが、それにはどうすべきか。何かあった時の風評被害が怖いなどであったと思います。そして4月に7都府県を対象にした非常事態宣言が出されると3月中に濃淡があった対応が一変したように見えました。法的な制約を受ける学習塾は限定的なため、千葉では私たち中小塾は必ずしも休業を強制はされませんでしたが、現実としては対面授業を回避するための方策を練り、行動変容を迫られました。具体的には、3月中と同様に集団感染が発生しやすい傾向のある「密閉空間」「密集場所」「密接場面」(三密)が重なる状況をつくり出さないように、通塾を要する対面授業などを最大限に控えて、リモート授業を行うなどの対策を各塾が行いました。

こういった状況の中、私の塾では、できるだけ生徒の学習環境に負荷(例えば、新しく何かをそろえなければならないとか、新たに契約をしなくてはいけないなど)をかけないように講座の設計をしました。普段から生徒はLINEやYouTubeなどのツールを使用していたので、生徒・保護者との連絡・動機付け・元気づけにはLINEを、未習範囲などの講義はYouTubeでの動画配信での二つを軸におきました。また、学校の長期休校による学習習慣の維持対策のためオンライン会議サービスのZOOMを導入しました。9時～12時の間はオンライン演習室という名前でZOOMを利用した勉強時間の確保をしました。生徒たちは朝ZOOMにアクセスをした後、LINEグループを利用して今日の学習予定を連絡します。(ここでは、みんなも頑張っているという一体感を出すために敢えてグループを利用しています。また、質問もLINEグループを利用することによって、自分もわからなかつたものが質問に出ていたりすると、一緒に解説を求めたりすることができます。)午後からは、生徒が時間を分散して課題を提出に持ってきます。提出は週1回こちらで学年毎に曜日と時間帯を指定しました。塾で用意した提出袋に課題を入れて持ってきたものを受け取るだけですが、短時間でも対面することにより気分転換もでき、生徒の様子を知ることもできました。受け取った課題は翌日の午後までには次回までの課題と、提出されたものに添削・解説の赤を入れて各生徒の家のポストに配達をしました。そして夕方から夜にかけては出した課題の解説動画を撮影してYouTubeにアップするという作業をしました。また、

好評だったのが「30日チャレンジ」です。毎日朝、夕15分ずつ国語・英語・社会・理科の中から自分で決めた教科書を音読するというものなのですが、学習のリズムが付く、予習・復習になる、読むだけ・聞くだけなので始めやすいというのがポイントだったと思います。これもLINEで読んだ教科やページ数を共有することでお互いの刺激になっていました。

約3か月にわたる学校休校・外出自粛要請など今まで私たちが経験したことのない情勢の中で、「学校は何もしてくれない・プリント課題を出すだけ」「学習の遅れ」「学力低下」などと不安をあおるような言動をする塾が現れる一方で、「オンライン朝の会」を開いて地域の子どもたちの元気づけ・勇気づけを行う有志のお母さん方も現れました。私たちも教育機関をうたい、教育の専門家を自負するのであれば、学校にできないことをあげづらい、他を出し抜くことで不安を解消させるのではなく、塾でできることで学校教育を補って、情報や学習の機会を提供して地域の子どもたち、自塾の生徒・保護者を笑顔で幸せにしたいと思いませんか。「コロナ禍と塾」というテーマをいただいてそんなことを考えました。

エリア四国 丸橋 俊之（丸橋塾）

コロナの影響は当然ながら四国にも及ぼしました。四国は4月中旬頃に感染者のピークを迎えるました。香川県も多くの塾が教室を閉鎖しました。私の塾もオンラインでの対策を迫られましたが、もともと私がITにうとかったこともあります。教室を閉鎖した1ヶ月の間、zoomによるオンライン自習室を開設するのが精一杯でした。今回、ふとしたことから大学のオンライン対応を調べましたので、ご報告いたします。

大学のオンライン対応には2つの柱があります。オンラインのライブ会議システムとLMS(学習管理システム)です。ライブ会議システムは皆さんもご存知のzoomに代表されるものです。LMSとは、オンラインで学習教材の配信、課題の提出、小テストなどを行うプラットフォームです。LMSは2010年代前半から多くの大学が既に導入しておりました。まずライブ会議システムですが、東大、京大、関関同立大など多くの大学がzoomを採用しており、zoomのシェアがかなり高い印象です。他に有名なライブ会議システムとしてはwebex、マイクロソフトteamsがあります。teamsはマイクロソフト社のシステムですので、ワードやエクセル、パワーポイントに親和性が高いという利点があります。次に、LMSでは、大学の採用はmoodleとmanabaに二分されているのが現状のようです。多くの大学がコロナよりかなり前からLMSを導入していたことは正直驚きました。

塾としてオンライン授業に力を入れるとして、結局どのシステムを使うべきなのか?という点ですが、大学のシェアが示すように、今のところzoomが第一候補のようです。操作のシンプルさ、参加のハードルの低さ、参加者のプライバシー保護(背景のボカシ)などでzoomに優位性があります。また、以前指摘されていたようなセキュリティの脆弱性もどんどん改善されているようです。私自身「zoomでまともなオンライン授業できるの?もっといいソフトあるんじゃないの?」と思って調べましたが、勉強不足でした。zoomでやれることをしっかり勉強しようと思っています。

JAC 千葉学習塾協同組みの取り組み

■エリア関東副代表 柳田 浩靖(日米文化学院)

千葉学習塾協同組合にとって、「スクールフェア」は設立以来30年以上に渡り毎年続けられてきたイベントである。これにより、私学と組合塾がつながることが出来、フェア終了後の懇親会でのふとした話から様々な恩恵を受けることもあった。また、組合運営のための貴重な収入源であったことも間違いない。「スクールフェアなくしては、塾人としての今の自分はない」と言い切れる程、自分にとっては限りなく大きな意味を持つイベントなのである。

そして、自身が実行委員長になり4年目に起こったこの騒動。今年は新たな実施会場として神田外語大学を選定し、今までにない、全く新しいスクールフェアの形を模索している最中であった。「なぜ、年に限って…」との思いはある。しかし、昨年度は開催予定日に超大型の台風が直撃するとの予報に対し、早めに延期の決断をしたことが功を奏し、参加校の皆様からも評価を頂いていた。「果たして10月までに事態が収束するのか?」と考えたときに、そのイメージは全く湧いてこなかった。そこで、早々と4月の理事会において中止を決定した。

しかし…、設立以来続いているこのイベントを、そんなに簡単に中止にしてしまって良いのか?組合の財源はどうする?それより何より、スクールフェアは自塾の生徒を始め、参加する子供達の人生を変える程の意味をもつものではなかったのか?と考えたときに、このまま、何の代替案を出さない今まで終わる訳にはいられないだろう、というのが率直な気持ちだった。そして、困っているのは私学と同様なのでは?ということに思い至った。今まで通りの生徒募集活動はままならない。県内の現場の話を聞く限り、思っているほどIT化も進んでいない…。

と考えたとき、逆に今回の一件で、家庭でのオンラインへのハードルは一気に下がっていることは肌で感じていた。「オンラインでスクールフェアをやったら…。」とイメージしたとき、今度は上手くイメージしか湧いてこなかったのである。かくして、限定40校としたものの、10日もかからず、あっという間に募集枠は埋まった。あとは成功へのイメージを実行に移すのみである。都内や石川県(国際高専)からの参加もあるので、是非、皆様もオンラインスクールフェアにご参加下さい!



オンラインスクールフェアの広告
(千葉学習塾協同組合)

特集・コロナ禍と塾

②特別寄稿

コロナ社会での生きる力

▶教育評論家 小宮山 博仁
(私塾ネット名誉会員)

昨年の暮れから流行り始めた今回の新型コロナウィルスは、その後3か月であつという間にほぼ全世界に拡散し、現在多くの国では感染者数及び死者数が増え続けている。今回の感染症は我々にとっては未体験ゾーンであるが、将来のことが予測がつかないと言って、手をこまねいているわけにはいかない。過去のしっかりとした知見とエビデンスで、これから起こることに対応していく力が、子どもに伝えようとしている「生きる力」ではないだろうか。

過去の経済不況や20世紀中頃までに定期的に生じた経済恐慌は、基本的には生産の過剰か過少消費が要因であった。しかし今回は人類がまだあまり経験していない、生産と消費が同時に減少する縮小再生産という状況になりつつある。短期間にこのような社会状況になったのは、人と商品と貨幣の動きが活発になった「グローバル化した社会」であったことは言うまでもないだろう。

私たちの生活が変化するということは、求められる職種だけでなく働き方や生産方法やサービスの提供のしかたも変わってくることを意味している。公教育も今まで以上に「何のための教育か!」という難題に取りくむことになる。

求められる学力や能力が変化していくことが予想できる。当然「生きる力」の内容も今まで以上に範囲が広がってくるであろう。数学・英語・国語といった何かを学ぶための道具として役立つ教科だけでなく、経済学・法学・社会学・経営学・心理学といった社会科学系、工学・物理学・生化学・地学・医学・薬学といった自然科学系、といった高校までに学ぶ知識が多くの中学生に求められてくるに違いない。高校の教科書の内容を一通り身につければ、それは一般教養(リベラルアーツ)になるとも言われている。「リベラルアーツ」という用語は、実践的にはあまり役立たない芸術・文化という意味合いが強いと思っている方も多いであろう。しかし危機に対応できる「生きる力」の基になるのが一般教養であると考えることもできる。多くの情報を自分の持っている知識や教養で理解して「知恵」として、納得のいく行動を1人ひとりの市民が実践することによって、より強い力を結集することが可能となる。

人間の「知恵」と「食糧(物の生産と言ってもよい)」この2つが危機に対応するために最終的に必要とされるものであろう。この2つは人の連帯感と関連することは明らかである。お互い協力して「知恵」を出す、協同で「食糧生産」を行う、これは人類が長い歴史の中で築いてきた「共同体」内で実践されてきたことである。家父長的なたての関係の農村共同ではなく、近代的なフラットで平等な「コミュニティ(共同体)」が注目されてくるに違いない。この時教育の役割は重要である。

点数を他人と競わせるだけの受験勉強、上・下関係や賞罰を中心とした外発的動機付けの教育では、学ぶ意欲は継続しにくく、しかも連帯感を築くのは難しい。このような社会情勢下では、内発的動機付け中心の教育で市民の連帯感を強めることが求められる。ふだんどのような授業をしているか、してきたかを、新しい感染症で試されているのが、今の塾なのではないだろうか。塾講師や経営者と子どもの関係性が「密」であるか、そして親和的であるかが問われている。

これからもオンライン授業は多くの塾で様々な工夫をしながら取り入れていくことになるだろう。その時、ふだんからサービスを提供する側と受ける側に信頼関係を築いてきた塾では、消費者はその授業スタイルを受け入れることが多い。お互いを信頼し連帯感を保つには、学力や成績だけの関係性ではなく、人と人とのつながりを重視した「生きる力」が注目されるであろう。

(この力は「人間力」という用語で表わすこともできるのではないか。

図解 眠れなくなるほど面白い大人のための算数と数学

「算数・数学、何のために勉強するの?」という子どもの質問に対し、「割合や速さなど実生活で活用しているでしょ。それに論理的思考能力が養われるわよ」と答える保護者や教育関係者は多いのではないだろうか。しかしさらに「私は文系なのに何で論理的思考力が必要なの?」と言われたら、我々はどのような答えを用意するだろうか。「生きていく上で何かと便利だよ。生きる力を身につけよう!」と伝えるのが精一杯であろう。

ここ25年間で日本は、阪神淡路大震災(1995年)、リーマンショック(2008年)、東日本大震災(2011年)、そして現在の新型コロナウィルスの爆発的な拡散、といった大きな災害に4回も遭遇している。このような時我々に求められるのは、正しい情報を収集し、今までに得た知識と経験を総動員して、皆で力を合わせて、冷静にかつロジカル(論理的)に行動する「力」ではないだろうか。これも生きていく上での「知恵」と考えると、算数・数学的発想は、理系だけなく文系や社会科学系の人にも身につけておきたいものである。

算数・数学は「つみ上げ式」の学問であるが、一定の小・中学校の範囲の知識を身につけておくと、「数学の学び直し」が可能となるに違いない。特に学校を卒業した大人は、「テストで評価される」心配はない。時間があるときに自分の意志で「学ぶ」から、少しでも「わかる」部分を見ると「面白く」なってくる。

このような主旨でシリーズ「眠れなくなるほど面白い～」は書かれている。第1弾は「眠れなくなるほど面白い数学の定理」(2018年発売)で、発売部数は今まで約9万部となっている。第2弾は「～数と式の話」、第3弾は「～統計学の話」、そして最新刊は今回紹介する「眠れなくなるほど面白い大人のための算数と数学」である。

この本は、小学校・中学校の算数と数学が中心となっている。基本から「サクッと」おさらいでき、算数や数学の面白さが伝わるような内容である。大人になってよく考えてみるとわからないこと、子どもに聞かれて説明できない身近かなことがけっこうある。例を少し書き並べると次のようになる。

- ①長方形の面積はなぜタテ×ヨコで求めるの?
- ②算数と数学は何が違うの?
- ③無理数って、どういう数なの?
- ④数学の数字や単位は世界共通語?



⑤たし算やひき算は同じ単位で計算するのに、かけ算やわり算は計算すると単位が変わる、これどういうこと？

⑥ピタゴラスの定理は何に応用できるの？

算数や数学は、基本的な考え方わかれれば、納得できて面白い!! 文系人間をはじめ苦手意識の強い小・中・高の算数と数学を、まるごと一気に学び直せる本である。本書を読めば、日常生活に活用されている算数や数学が身近かに感じられ、「数学的な思考」が身につき、ロジカルな発想を手に入れることができる。

各章の見出しは次のようにになっている。

プロローグ「算数と数学のルーツ」

「算数と数学の違いがわかる」

「小学校の算数がわかる」

「中学・高校の数学がわかる」

「日常生活に活用されている数学」

「大人が答えられない算数のナゾ」

「算数と数学の問題を解く」

エピローグ「毎日の生活に役立つ算数と数学」

スもあったらしい。おそらく学校側も気が付いてその後は改善されたと思うが、オンライン授業を「やればよい」ものではないことがわかる。

情報収集と拡散する動きの速さについては「寅の会」について触れておきたい。

「寅の会」とは文華女子高校の梅田浩一校長が呼びかけて年に1~2回行われる情報交換会の通称。毎回60人から100人近くの私学や塾の先生方や教育関係者が集まっていたが、これまで勉強会や講演会は一切行っていない。いわば大勢集まる会費制の「飲み会」に過ぎない。

2月末に休校要請が出た直後、「卒業式どうする?」「学年末試験と進級評価は?」梅田校長に寅の会のメンバーから問い合わせが次々と入ったため、一斉アンケートを実施。緊急事態に必要なのは速度だが、「梅ちゃんの頼みなら」と多くの学校がすぐに返答、梅田校長は2日もかけず各校の対応を一覧表にまとめ、「寅の会」メンバーに配信した。4月以降も「入学式は?」「休校中の課題やオンライン授業は?」「修学旅行や文化祭など行事は?」「部活は?」相次ぐ他校の状況を知りたい、という問い合わせに次々と応えていった。「寅の会」の私学ネットワークが作成した項目別の各校対応一覧表は県境や競合校の壁を超えて入試広報の先生方の間で共有された。「寅の会」の仲間意識が功を奏した格好だ。

私塾ネット会員塾をはじめとした多くの学習塾の先生方も様々な試行錯誤や情報交換を重ねて休校期間に様々な取り組みをされたことと想像する。オンライン授業、課題作成と添削、授業動画の作成…等、募集活動はままならない中、仕事量は格段に増えた方も多いことだろう。私学・私塾を問わず、いつもの仕事に加えて慣れないことにも取り組まれた先生方に敬意を表したい。

外出できない状況でやむなく重ねた試行錯誤であっても、単なる飲み会仲間の「寅の会」が貴重な情報交換のネットワークに化けたように、悪いことばかりではない筈だ。モニター越しの授業から新たな発見が生まれ、より高い学習効果が期待できるきっかけになったり、対面式の授業では気が付けなかった生徒の長所に気が付いたりすることもあったに違いない。

さて、新型コロナウィルス感染が再び拡大した場合、従来通りに入試を実施できなくなるのではないか、という懸念があるので触れておきたい。私学の一部ではオンライン入試を検討、海外の現地生向け帰国子女入試や転編入試験での一部導入を公表しているところもある。ただ、オンラインの場合、不可抗力による通信の中断が起り得る点をどう考えるかという問題がある。入試規模にもよるが、数百人以上の入試規模でオンライン入試を行うのは難しい。三密を避けるべく、時間短縮や実施会場の拡大などをしても筆記試験は行うことになるのではないか。過去問題集を出版している業者の希望的観測です。



「コロナ禍首都圏私学の取り組みとこれから」▶(株)声の教育社 営業課長 三谷 潤一

新型コロナウィルスの感染防止のため、日本中の学校が臨時休校となった2020年3月から5月までの3ヶ月間。首都圏私学はどのように対応したのか。

静岡聖光学院は安倍首相の臨時休校要請会見直前に休校を決め、準備を進めていたオンライン授業を3月2日から段階的に実施した。3年前からiPadを導入したことでも功を奏したようだ。横浜にある搜真女学校も政府から要請が出る前に生徒の安全を考え2月下旬に休校を決め、3月には双方向型授業をオンラインで実施していた。

多くの私学では、まず家庭学習用の課題が生徒に送られ、感染防止のための手洗いや生活習慣についての指示やアドバイスが出され、スタディサプリやClassi等を使用したインターネットでの学習も奨励された。休校期間の延長に伴い、オンライン授業が検討・実施されるようになった。品川女子学院は4月からリモート授業を開始し、5月には他校の先生方と一緒に情報を共有し意見交換をすべくオンライン報告会を実施、その際の動画を限定公開した。自校だけでなく他校とも協力して生徒達にとってプラスになることを提供したいという姿勢が表れている。

YouTube等で20分前後の動画による授業を見た後で課題に取り組む反転授業や、zoomを使って課題を5分ほど説明してからグループ毎に討論・発表をさせた後、レポートを提出するアクティブラーニングをオンラインで実践する私学もあった。積極的にICTを活用している三田国際学園では「準備が大変だけど、いつもとほぼ同じ授業ができる」とお聞きした。慣れない動画授業を配信するより生徒の自主性に任せて課題をご家庭に送り、インターネットを使用した個人面談や生徒からの質問に応じる形で生徒支援に徹する学校もあった。

いち早くオンライン授業を開始した学校の中には、先生が一方的に講義する50分授業をzoomで配信、新中1生がモニター越しに見られていることを意識して睡魔と闘いながら入学を悔やんでいたケー

特集・コロナ禍と塾

③ZOOM 座談会

「コロナから学んだこと・オンライン学習指導の今後」

6月19日、金曜日の10時からと言う普段なら集まることが難しいと思われる日程の中、鈴木正之先生、田中宏道先生、渡辺浩先生、柳田浩靖先生にzoom上でお集まりいただき、zoomを用いた遠隔授業についてお話ししていただいた。(以下、敬称略)

報告：センター事務局長 中村 庸彦

Q: zoomを使った今や今までの状況はいかがですか？

▶田中：今週から通常の時間に戻した。中1、中2は塾に来てもらっている。夏期講習ができない分、中3は週3から週4にして2日はzoom、残り2日は通塾。中1、中3は喜んで来てくれている。中2は通塾が面倒に思っている生徒もいる。7月8月は講習ではなく、通常授業を続ける。中3は土日や他の時間を使って多めに授業をする。中1、中2も増やせたら増やして授業料を少しアップさせたい。休校期間中は小学生は午前中に、中学生は午後に授業を通常よりも長く行った。その他オンライン自習室も開設した。小2、小3は授業ではなく、学校の課題をやる自習時間にした。友達の顔が見られて楽しそうであった。画面上で縄跳びをしている子もいた。お家の方も子どもから手を離せたのでよかったのではないか。

▶柳田：対面授業の中止を決める前からzoomを中学受験コースでは始めていた。思った以上にスムーズに授業が出来たことで、他の学年でも十分使えるという手応えを感じていた。一斉休校後は、すぐにzoomに移行。周囲の塾ではオンライン授業を開始しておらず、zoom授業が付加価値になり、生徒も乗り気で、保護者から感謝の言葉も頂けた。4月に入り飽きがでた。オンライン授業の課題はやはり授業内容の定着度を測ること。休校が開けて塾内のテストをやらせると、特に学年が下がる程に取り組みの甘さが露呈した。授業自体はうまくいっていたと思うが、休校期間中の内容はもう一度繰り返しが必要。休校が明けて、半分は通塾、半分はzoomでの対応。zoomの様子をプロジェクターで映して、塾と在宅受講者お互いの様子を見せたら、面白がってくれた。プロジェクターやスクリーンを買いつしたが、来週からは通塾に戻す。しかし、部活が18時までのため、夏期講習も夕方から組めず、市によって休みが1週間ずれるので、例年と同じ時間数にするには休みなしで夕方からびっしりの時間割。子供にとっては学校+講習毎日だと疲れ出すのでは？ご家庭にとって、塾は月謝を取りたいだけだろと思われてしまうのか。カリキュラムもあるから短くするのも…。

▶渡辺：3月の段階では保護者の声はコロナ感染の危険ではなく、学校が閉まることへの心配が多いので、春期講習までは通常。前からアルコール等のインフルエンザ対策として除菌をよく

していたので、それにプラス換気と手洗い励行で対応。4月7日の緊急事態宣言の発表を受け8日から授業をストップ。このままではいけないとzoomを授業で使っていこうかと思ったが、抵抗を考え、まずはオンラインに慣れさせる事に。ネット環境を聞いたところ、数件環境が整っていない家庭があったので直接電話して、調整した。4月第2週からスタート。小学生低学年では親御さんがテレワークで家にいた時は手伝ってくれたが、テレワークが終わって一人では無理。中学生はレクチャームービーを配信し、週に1回質疑応答。第4週は5月7日に緊急事態宣言が明けるとの話だったので、通塾に向けてG.W.も潰してzoomで授業をやったが、延長になり、それ以降も引き続きzoom。ただ時間を伸ばす、日数を増やすなどお得感を出した。6月1日からの解除で、13日までの2週間、通塾とzoomのどちらでもいいですよとしたら、1割が面倒くさいからzoomを希望。今回のzoomではサボる子はラッキーと思い、やる子は早く来たいと思うことが分かった。やっていた子とサボってきた差が出てきている。近所の塾を見ると完全に密になっている。7月から自習を開始するのでパーテーションやビニールシートを吊るして対策をする。

▶鈴木：3月が入塾のメインの時期だから、大変だった。4月の問い合わせ0は40年間で初。ただ古株の生徒とやっていたので、zoomの授業は成立した。以前からオンラインへの根回しができていたので、4月8日からスパッと切り替えた。これはいいぞと思っていたが、普段の一斉授業では子供達ができないところを探って、どうすればいいか対応を考えていた。zoomだと伝えようとする方が多い。こちらが生徒を受け入れようとする授業だったのに、伝えようとする授業になっていて、案の定うまくいかない。

▶渡辺：授業は五感を使ってやるもの。五感を使って子供の姿を見ている。

▶鈴木：中3はコロナ明けでは一斉授業に入って来られない。保護者にはマラソンの折り返しまで進んでいるので、今後は追いつけない、と話していたが、蓋を開けてみると出来てないので追いつかれてしまう。他と差がついている子は本人が気付いてやる気になっているのであれば、補習をやるしかないが、いつやるか？



Q: やっている人、やらなかつた人の差についてどう考えますか。

▶田中:いつもより時間を長く授業し、部活動で疲れておらず、宿題をやる時間もたっぷりあったので、例年よりも進みが良かつたし、定着度もよい。6月15日(月)から塾に来てもらって、学んだことが本当にできているかどうかを確認し、完璧にできるまで繰り返させていた。中3は思った以上にできていた。中1、中2は案の定、理解はしているが確実ではない子が多くいた。通塾になって、完璧になるまで帰れなかったり、別日に来なければならぬないので、目の色を変えてやる子が増えた。次元が一つ上がった感じがする。

▶渡辺:やるかやらないかが、自己責任になってしまった。そこが弱い子はできなかつたから、塾が場を準備してやらなければならない。

Q: 今後、zoomを使っていくか?

▶柳田:高校生は使える。特に、現代文の授業テンポはzoomでの相性が良いと感じた。zoomでいいかと聞くと手が挙がるのは高3の現代文。中学の英語では長文のペアワークなどはかえってzoomが使えるかも。逆に対面では難しい。

▶鈴木:マンツーマンの個別は(web家庭教師)はハマる子はハマる。今のままでは緊急時に使うものでしかない。しかし個別ではビジネスとして成立つのではないか。

▶田中:zoomで授業をする分、教室が空くので自習室として活用している。実際できているかは塾で確認するが、授業はzoomでも可能だし、youtubeに動画をあげているので、それを見てもらって授業を受ける反転授業ができる。見ないでごまかしている子もいるのでオンラインの授業中に動画を見せている。質問

を4個以上見つけるなど、個数を決めて宿題を出した。4つ見つけるまで残して見つけさせた。普段は質問をしない子も質問しちたし、それに対する解説授業はよかったですと生徒が言っていた。講義を進める授業と質問をオンラインで、演習は教室で。

▶渡辺:zoomを活用すると場所が空く。教室が一畳でも大丈夫だし、生徒の対象が全国。究極的には世界まで。

Q: 科目でzoom対応しやすかったのは?

▶柳田:配信で画期的に進化したのは社会。Preziというプレゼンソフトを使って、視覚的に教えたら好評。アクティブラーニングでは生徒が生のペアワークは出来ないが、ブレイクアウトルームを使うと出来る。生だとコミュニケーションが難しいのに、オンラインだと出来るというのは現代の生徒ならでは、か。

▶鈴木:理科での資料を見せるなどの説明はいいが、数学での問題演習で出来ているかわからない。大丈夫かと聞くと大丈夫だというが……。

▶渡辺:リモートもより時間かけて工夫をすればより本質が見えてきて、時間や場所などの効率ではいいが、わかっているかどうか、伝わっているかどうかのようなエモーショナル部分では対面には敵わない。そこが本質の違いではあるので、これからは使い方の工夫なのではないだろうか?

1時間という短い中で、得られた皆様の現状とご意見は今後の塾を考えるキッカケとなると思う。最後に、去年の私塾ネットの研修でスタディプラスの宮坂直さんやラボ寺子屋の小泉正太先生に会えて、今の状況になったのは奇跡的なものだと感じている。改めて、その出会いに感謝をして、締めくくりとしたい。

自由研究サポート教室を目指して！

塾・現場報告 一台の顕微鏡から！

梶原 賢治（朝日学習館・埼玉県）



梶原賢治先生が主宰する朝日学習館は、幼児・児童教育の世界で画期的な実績を積み上げておられます。以下がその実績と指導者としてのお考えです。（編集部）

四谷大塚全国統一学力テスト、9年間連続全国一位達成。（トータル11名延べ13人）



梶原 賢治

前回2019年11月実施回では、年長全国一位1名。小1算数全国一位1名、小1国語全国一位1名、小2国語全国一位1名。全国一位同時4名達成。高学力のお子様の親御さんの中には、読み書きそろばんを要請しない方もおられます。それもありいろいろ妙なことをしています。全国一位の生徒さんの中には、私立小の生徒さんが3名おりますので中学受験がありません。毎回のテストで算数130点以上の生徒さんは、御三家合格レベルと推定されます。算数の学力に関して言えば、同テスト150点満点中、120点以上の継続で、中学校の教科書は、読んだらわかる読解力・思考力と思われます。興味関心の育成が、大きなテーマです。様々な、得点者を見る中、得点では測ることの出来ない多様な個性のリアルな把握とそれへの便乗が出来たらと思っていますが右往左往の日々です。このような発表の機会を頂きまして、心より感謝申し上げます。

子どもと共に、デジタル顕微鏡で様々な微生物の世界をのぞき込むまで知ることのなかつた、微生物の世界は、小さな大宇宙だった。たった数平方ミリメートルの世界が、多様な生物の世界だった。

鹿島神宮近くの田んぼの隅の水たまりからペットボトルで採取してきた濁った水。その一滴をプレパラートにのせて顕微鏡を覗いてみると、数えきれないほどのミドリムシ・ゾウリムシ・ラッパムシと思われる輝かしいうす緑の微生物の世界であった。

ペットボトルの外から見るボトルの底の濁りは、想像するに活発に運動する無数の生き物の楽園であろう。100ccほどの濁り水中にいる、微生物の数の膨大さに思いをはせると、私たちが、菌類・微生物・植物・動物という広大無辺の生態系の中で相互に依存しながら生きていることがリアルに感じられてくる。その世界の一点に明かりを当てることで、子どもたちと共に自然の尊厳と奥行きの深さに触れることが出来たらと願っている。

授業が始まる前に、教室の隅のデジタル顕微鏡に被観察物を置き、その小さな明かりを点灯したままにしておくと、教室に来た子供たちが、デジタル顕微鏡の前に集まってくるのは興味深い。田んぼの隅の一滴に、「ワーいるいる」と歓声を上げる子ども多々いる。中には、近所で子どもたちが拾ってきた様々な火成岩の小片を次々と取り換えては代えては、一通り満足いくまでのぞき込んでいる子どももいる。



年長生Mちゃんが、茨城県鹿島北部の砂浜の砂を、顕微鏡で見るため一階の園児の教室から二階の小学生の教室に上がって来た。全体としては、灰色の砂粒は、デジタル顕微鏡で見ると、透明（石英）、白（長石）、黒（黒雲母）、オレンジ色（不明）などに輝いてい

る。Mちゃんは、「わーきれい」と歓声を上げながら覗く。そのとき描いた絵が、左の絵である。感動だ。

▶石とデジタル顕微鏡のつながり

コンクリートで舗装してない駐車場であれば、六種の火成岩、流紋岩・花こう岩、安山岩・せん綠岩、玄武岩・はんれい岩を見つけるのは、川口駅から離れている私の教室の周囲では、困難ではない。中でも花崗岩は、虫眼鏡でも造岩物質（石英・長石・黒雲母など）を簡単に分別できるのは楽しいようだ。数名の子どもたちは、時々興味深く目に映った石を教室に拾ってくる。それらを虫眼鏡やデジタル顕微鏡で見る非日常性は、彼らにとって興味深いことのようだ。何かを日常的に見続けることが、次のステップに進むキッカケになったらと願っている。

▶ミジンコからミドリムシへ

ミジンコは、飼い始めて3年以上になる、ミジンコからミドリムシの観察への道のりは、長かった。教室でミジンコを飼っていることは、生徒全員が共有し、現在は、ミドリムシ・ゾウリムシ・ラッパムシ・ツリガネムシなどの微生物の世界に向かっている。長い間飼うと、奇妙だが、ペットのように愛着がわいてくる。

デジタル顕微鏡の倍率に飽き足りなくなり、昨秋に、光学顕微鏡を手に入れた。三方向からLEDの光があたり、画像は、明るく鮮明である。覗いてみると、ミジンコしかいないと思っていたペットボトルの水は、倍率を600倍にした光学顕微鏡で覗いてみると微生物の大集団であった。レンズの先で、無数の微生物が生きて動いている光景は、デジタルにはない存在感で迫ってくる。その一滴を、ティッシュでふき取り捨てるとき、生徒が「あっ、殺した」と一言。

生物など、後にも先にも勉強したことがない身の上、顕微鏡が自由自在に扱えたならばと思う日々は続いている。デジタル利用の学習が、学習の世界を席巻していくようにみえるが、デジタルの豊かさを決めていくのは、youtube同様アナログの豊かさであることを痛感する日々である。

望遠鏡を利用すると見えない星が見えるように、道具が変われば、世界の見え方が変わる。教室の遊び道具に顕微鏡はお勧めである。



私塾ネットセンターより

役員及び活動方針について

会長 鈴木正之
(いぶき学院)

新型コロナウイルス感染拡大防止の為、全国研修大会は仕切り直しとし2021年4月の開催を目指し準備を進めていますが、その他の行事につきましては中止なりました。

全日本私塾教育ネットワーク(私塾ネット)は全国にエリアを設け活動をしています。私塾ネットセンターは私塾ネットエリアをつなげる役割です。

全国研修は私塾ネットセンターの行事として毎年行われてきましたが、研修会当日に各エリアの代表とセンター役員で構成されます、代表者会議も予定されておりましたが合わせて中

止となりました。

今回の代表者会議では2期4年理事長を務めてまいりました仲野十和田氏が任期満了となり、新理事長の選出が大きな議題でした。私塾ネットセンターではメールを中心に調整させていただき、仲野十和田氏の理事長の1期2年の延長が決まりました。その後、理事長より役員と2020年度活動方針が発表となりましたので、広報の紙面に掲載させていただきます。

私は4年間、事務局長職を多くの方々に支えられ何とか務めることができました。紙面を借りまして皆様にお礼を申し上げます。今後は会長として仲野理事長、中村事務局長を支えてまいりたいと存じます。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



私塾ネットセンターより

理事長・事務局長からの挨拶

◎理事長 仲野十和田

皆様、元気でお過ごですか?

新型コロナウイルス感染症が発生してからというもの、各塾での対応が迫られました。

それぞれの塾で頭を悩ませたと思います。当方も3月までは、保護者の方の要望に添って通塾させておりましたが、4月7日の緊急事態宣言の翌日から、塾に来させるのはやめ、リモートによる授業を行ってきました。ZOOMを使用していますが、その良さや将来の可能性を感じることができる一方、大変さを感じているところです。実際私もGWに連日授業を行いましたが、何ともいえない倦怠感を味わいました。皆様も画面の向かい過ぎにくれぐれも気を付けてください。

さて、4/19に予定されていた、私塾ネットの20周年記念会が延期され、同時に代表者会議も中止されましたので、決算報告や事業報告その他決議事項もできないままになってしまっていました。決算に関しては会計の鈴木学さんが3月中に済ませていただいていたので、その他準備できた書面を送らせていただきます。大変遅くなり申し訳ありません。その中で、まだご存知のない方もいらっしゃるかと思いますが、私仲野が規約に基づき、1期2年だけ理事長職を延長させいただくことが、臨時の役員会で承認されました。ご報告と共に、あと2年間頑張って仕事をさせていただいと思っておりますので、宜しくお願い申し上げます。大きな人事としては、中村庸彦先生が事務局長に就任しました。鈴木正之先生の後任ということでとてもプレッシャーを感じていると思います。私も、私塾ネット発足後、佐藤勇治先生から事務局長を引き継いだ時のこと思い出すと、痛いほど気持ちが分かります。皆様、温かい気持ちで応援してあげてください。

さて、コロナ発生後、エリアの中で連絡を取り合ったりしていることもあるかと思いますが、先日センターでもMLの構築に着手し、試用を開始しました。各地の様子や自塾の様子を

発信していただければ嬉しく思います。また、延期されている20周年記念大会および、記念誌の発行は2021年4月に行う予定ですが、まだ明言はできないところです。広報も5月号は中止としましたが、7月に合併号を出したいと思っています。

今後も受験期を前に第2波が来るかもしれません。どのような状況下にありましても皆様のご健康とご繁栄をお祈りしております。

◎事務局長 中村庸彦

皆さん、こんにちは。

この度、私塾ネット事務局長となりました、神奈川県川崎市川崎大師にございます中村学院の中村庸彦と申します。初代、中村照満が学習塾を始めてから今年で60年を迎える、地域に密着した見た目も古い塾でございます。

中村学院としては私塾ネットには先代、先々代の院長が大変お世話になりました。私も2005年に塾の講師を始めてから、右も左も分からず、私塾ネットの研修にて教務のことやコーチング、塾経営についてなど大変多くのことを学ぶことができ、現在の礎が築くことができたと感じております。

鈴木正之先生の後に事務局長となることは大変プレッシャーに感じております。

世情と合わせとても意義のある持期に役割を頂戴したと感じております。このような時だからこそ、私が塾講師を始めた時のように、これから塾を作り出す人々の力になれるよう、少しでも塾業界が素晴らしい方向へと進むよう、努力していく所存でございます。とてもとても至らぬところがあると存じますが、皆様のご協力をいただけたら幸いです。また、まだお会いできていない方や、詳しくお話しできていない方とコミュニケーションを密にできたらと思っております。これからよろしくお願いいたします。



私塾ネットセンターより

令和2年度 事業計画案

1. 20周年を向けて広報を一新し一層の会員の結束を強化し、センター活動のレポートも引き続き掲載していく。
2. 会員MLを構築し、会員相互の情報交換、意見交換を行うと共に、会員への情報発信に活用する。
3. 他団体の活動への参加と協力をより積極的に行う。
4. 学習塾団体グループへの参加協力の見直し。

コンソーシアム協議会、学習塾団体合同会議、民間教育推進議員連盟に対して私塾ネットの立ち位置の明確化を図り参加協力を継続する。各団体の会議への参加は次の者とし、重要案件については理事長の判断を仰ぐ。

コンソーシアム協議会：理事長（又は、会長）

学習塾団体合同会議：会長、事務局長、エリア関東総務部長

民間教育推進議員連盟：理事長（又は、会長、副理事長、事務局長）

5. コロナ禍におけるセンターの対応について

- ①行政への提言：学習塾協会等の他団体と協力し学習塾の現状を伝え必要な支援を得られるよう努める。
- ②会員間の情報交換：前述した会員MLを利用してリアルタイムの意見交換により、各会員塾の運営に役立てる情報を得られるよう努める。
- ③会員への支援：会員の情報を収集しセンターとしてできる限り支援をしていく。

6. 20周年記念式典の延期について

2020年4月19日に予定していた20周年記念式典及び全国研修大会は、2021年4月に延期するものとする。それに伴い広報「20周年記念特別号」の発行を見合わせ、今後の広報の発行の在り方を含めて今後検討していく。広報部長はそれまで空席として、後日決定する。

役員異動※敬称略

1. 今年度は役員改選の年となり2期4年経過した、仲野十和田理事長については、1期2年の延長が、メールによる代表者会議により決定しました。

2. 役員人事

事務局長：中村庸彦

広報部長：空席 ※大住広報部長より辞任の申し出があり、新広報部長を決定することになりますが、前述通り現在は空席です。後日理事長により選任となります。

※その他の役員の変更はありません

2020年度 私塾ネットセンター役員

※は兼任

| 役職 | 氏名 | 塾名 | 所在 | 役員ML 当時 |
|-------------|--------|-------------|------------|------------|
| 理事長 | 仲野 十和田 | ナカジュク | 東京都板橋区 | ○ |
| 会長 | 鈴木 正之 | いぶき学院 | 東京都品川区 | ○ |
| 副会長 | 湯口 兼司 | 湯口塾 | 香川県三豊市 | ○ |
| 副理事長 | 関 志郎 | 関教育学舎 | 青森県むつ市 | ○ |
| 副理事長 | 中村 直人 | 中村学院 | 神奈川県川崎市 | ○ |
| 副理事長 | 河浜 一也 | 学習共同体グループ | 広島県広島市 | ○ |
| 副理事長 | 寺嶋 謙次 | 学習院セミナー | 香川県善通寺市 | ○ |
| 副理事長 | 佐藤 将紀 | 若竹塾 | 広島県東福山市 | ○ |
| 事務局長 | 中村 庸彦 | 中村学院 | 神奈川県川崎市 | ○ |
| 事務次長 | 長江 広紀 | 英数学院 | 神奈川県川崎市 | |
| 事務次長 | 長原 糸恵 | のびのび学習塾 | 東京都練馬区 | |
| 会計部長 | 鈴木 学 | デザインオフィスズキ | 千葉県柏市 | ○ |
| 会計次長 | 木谷 朝子 | 木谷塾 | 東京都品川区 | ○ |
| 広報部長 | | ☆後日決定 | | ○ |
| 広報次長 | 西本 雅明 | パワーゼミ西本塾 | 広島県福山市 | ※ |
| 広報次長 | 小野 昭 | 小野塾 | 香川県丸亀市 | |
| 広報次長 | 小林 昌宣 | 小林進学塾 | 北海道小樽市 | |
| 広報次長 | 扇野 明弘 | 学習塾 TRM 登龍門 | 青森県青森市 | |
| 涉外部長 | 川久保 博史 | 英数義塾 | 東京都墨田区 | ○ |
| 涉外次長 | 桂馬 辰尚 | 桂馬ゼミナール | 東京都足立区 | |
| ネット管理部長 | 渡辺 浩 | 人間教育渡辺塾 | 東京都北区 | ※ |
| ネット管理次長 | 中村 庸彦 | 中村学院 | 神奈川県川崎市 | ※ |
| 研修部長 | 田中 宏道 | LAPIS鎌ヶ谷 | 千葉県鎌ヶ谷市 | ○ |
| 研修部次長 | 柳田 浩靖 | 日米文化学院 | 千葉県八千代市 | |
| エリア活動推進部長 | 長江 広紀 | 英数学院 | 神奈川県川崎市 | ○ |
| エリア活動推進次長 | 松浦 重雅 | 教進セミナー | 千葉県千葉市 | |
| 監事 | 梶原 賢治 | 朝日学習館 | 埼玉県川口市 | ○ |
| 監事 | 加藤 実 | 総合教育研究会 | 東京都荒川区 | ○ |
| 最高顧問 | 谷村 志厚 | AIM学習セミナー | 千葉県松戸市 | ○ |
| 顧問 | 小宮山 博仁 | | 東京都八王子市 | |
| 顧問 | 竹内 康信 | 山吹学習会 | 東京都墨田区 | |
| 顧問 | 監物 一男 | 向学館 | 埼玉県さいたま市 | ○ |
| 私塾ネット・北海道代表 | 入江 昌徳 | 札幌進学教室 | 北海道札幌市 | ○ |
| 私塾ネット・東北代表 | 安藤 水無子 | Andy's | 青森県八戸市 | ○ |
| 私塾ネット・関東代表 | 渡辺 浩 | 人間教育渡辺塾 | 東京都北区 | ○ |
| 私塾ネット・中部代表 | 松本 紀行 | チャレンジ学院 | 長野県諏訪郡下諏訪町 | × |
| 私塾ネット・中国代表 | 西本 雅明 | パワーゼミ西本塾 | 広島県福山市 | ○ |
| 私塾ネット・四国代表 | 近藤 誠介 | 文化の森スクール | 徳島県徳島市 | ○ |
| ジュニアの会代表 | 渡辺 浩 | 人間教育渡辺塾 | 東京都北区 | ※ |
| ジュニアの会副代表 | 湯口 哲朗 | 湯口塾 | 香川県三豊市 | |
| ジュニアの会副代表 | 柳田 浩靖 | 日米文化学院 | 千葉県八千代市 | |

閑話休題 編集後記

編集長 谷村 志厚

広報70号がようやく日の目を見た。当号は4月19日の20周年記念大会に合わせて、20周年記念号として制作準備をしていた。ご承知の事情で休刊となり3ヶ月を経てやっと復刊。すると、なんとなんと、ご覧のような衣替えとなった。当号から制作を、賛助会員であるデザインオフィスの鈴木さんにお願いすることになった。さすがデザイナーさんの手になると、カラフルでスタイルリッシュな仕上がり、レトロ親父の版下制作ではこうはいかない。感心しきりである◆悲しいお知らせが一つ。東京女子学園の前理事長校長にして東京都私立中高協会の副会長の實吉幹夫先生の訃報が届いた。7月1日、入院加療中のところ薬石効

なくお亡くなりになったとのことだ。思い起こせば、私塾ネットは實吉先生に大変お世話をした。設立時の第1回から毎年の全国研修大会にご出席をいただき、私学代表としてご挨拶をいただいた。まことに恩ある貴重な方を失った。合掌◆うれしいお知らせもある。實吉先生のゴルフ仲間でもあった玉城邦夫先生（エリア関東・修学舎）が日本民間教育大賞最高功労賞を受賞される。さらに柳田晋治先生（エリア関東・日米文化学院）も同時に同賞を受賞されることになった。小生、お二人とはいささか縁がある。千葉学習塾協同組合の第2代理事長が玉城氏、3代目が不肖谷村そして4代目が柳田氏と続く系譜である。同賞授賞式は7月13日、都内で挙行される。お祝いに参上せねばなるまい。コロナは怖いけどね。

私塾ネットセンター 事務局通信

事務局長 中村 康彦 (中村学院)



この度、鈴木正之先生のあとを受けまして、事務局長となりました中村康彦と申します。現状、何ができるのか模索中でございますが、これからよろしくお願ひいたします。

さて、この世界的なコロナの動きの中、オンラインでの可能性を各分野が探しております。やはりというかさすがというか、その中で素早かったのはエンタテインメント分野。特に音楽は現状の配信という形が大きい要素となっている中で“stay home”で出来ることの多さと対応の事前の準備状態はかなり優位だったと思います。日本でもオンライン上でオーケストラの方の演奏を1つにして配信したり、無観客でのライブを配信したりしていました。海外に目を向けると、オーケストラはもちろん、ローリングストーンズやビリージョエルなどはかつてのライブ映像を配信していました。この機会に改めて音楽に触れることが多くなった人も少なからずいらっしゃったのではないかでしょうか？

かく言う私もそんな一人で、先日テレビで「Lean on me」という曲を聴きました。元はソウルミュージシャンの Bill Withers が 1972 年に発表した曲です。今回はジャスティン

ビーバーやアヴリルラヴィーン、サラマクラクランなどのカナダのアーティスト達が集まって、自宅での演奏と映像を使いチャリティソングとして配信していました。優しく、美しい楽曲を、ある人は力強くある人は滑らかに歌い上げている姿はかつての「We are the world」のようです。そして、映像の中で各アーティストがスケッチブックなどに手書きでメッセージを伝えていました。その中には医療機関で働く人への感謝や全世界の人々への励ましもと共に、カナダという国に住む人への共に乗り越えようという言葉も綴られていました。

こう言った苦境にさらされると、自分の環境や状況と異なるものに対し、むやみと批判や中傷を浴びせてしまうことも多くなってしまいます。偏ったナショナリズムは賛美されるものではありませんが、自らが住む国と共に住む人々への思いやりを持つことは今の世界だからこそ大事だと考えます。自分の身近な人はもちろん大切ですが、今まで意識してこなかった共に生きる人々に対し、どう接することができるのか？世界が混乱する今、一つ、意識の転機を迎えているのかもしれません。題名の「Lean on me」は「私を頼って」との意味です。自塾の生徒にはこのメッセージにはこの言葉が意味を持つかと思いますが、将来は皆様に向けてもこの言葉を胸を張って言えたらと思っております。

「苺」。草かんむりに母を合わせてイチゴ。なにやら曰くありげだが、漢字の成り立ちには諸説あるようだ。母の漢字は乳房を表すことから、「乳首のような実になる草」という解釈もあるらしい。この説が馴染み深い。というのは現在我々が食している苺はオランダイチゴといって、江戸期に渡来したもののが原種。それ以前の苺はいわゆる野イチゴというやつで、これだと乳首と見えなくもない。さて山ほどある草かんむりの漢字から身近なものを挙げてみよう。苺（キノコ）、なるほど耳の形。（フキ）路傍に生えていますね。薬（クスリ）、樂（ラク）になる草ね。面白ですね。で、薺（ツボミ）は？草かんむりに合わせたのが雷。開花前の固いツボミに雷光と雷鳴が、それが開花の合図でことかな。植物と雷の取り合わせとしては「稻妻」がよく知られるところ。稻穂の結実期には欠かせぬ雨をもたらすのが雷ということでしょうか。稻の穂先が稻光の形に似ているとの説も。（志）

ちぎり絵歳時記⑯(苺)

作画・中村光江



一粒の苺こぼれて卓の上（直入）

賛助会員一覧（順不同）

関東国際高等学校

東京都渋谷区本町3-2-2

東洋高等学校

東京都千代田区三崎町1-4-16

桜丘中学・高等学校

東京都北区滝野川1-51-12

聖徳大学附属女子中高等学校

千葉県松戸市秋山600

麹町学園女子中高等学校

東京都千代田区麹町3-8

春日部共栄中学高等学校

埼玉県春日部市上大増新田213

東京立正中学高等学校

東京都杉並区堀ノ内2-41-15

八雲学園中学高等学校

東京都目黒区八雲2-14-1

武蔵野中学高等学校

東京都北区西ヶ原4-56-20

東洋大付属京北学園

東京都文京区白山2-36-5

大森学園高等学校

東京都大田区大森西3-2-12

東京成徳大学中学高等学校

東京都北区豊島8-26-9

日本工業大学駒場中学高等学校

東京都目黒区駒場1-35-32

青稜中学高等学校

東京都品川区二葉1-6-6

東京女子学園中学高等学校

東京都港区芝4-1-30

駒込学園中学高等学校

東京都文京区千駄木5-6-25

愛国中学高等学校

東京都江戸川区西小岩5-7-1

安田学園中・高等学校

東京都墨田区横網2-2-25

日本音楽高等学校

東京都品川区豊町2-16-12

立正大学付属立正中学高等学校

東京都大田区西馬込1-5-1

上野学園中学校・高等学校

東京都台東区東上野4-24-12

村山 サンドラー 先生

TEL : 03-3376-2244

石井 和彦 先生

TEL : 03-3291-3824

高橋 知仁 先生

TEL : 03-3910-6161

川並 芳純 先生

TEL : 047-392-8111

上田 翼 先生

TEL : 03-3263-3011

宇野 祐弘 先生

TEL : 048-737-7611

安原 正樹 先生

TEL : 03-3312-1111

横山 孝治 先生

TEL : 03-3717-1196

浅見 尚次郎 先生

TEL : 03-3910-0151

井出 秀己 先生

TEL : 03-3816-6211

三浦 圭 先生

TEL : 03-3762-7336

野中 修也 先生

TEL : 03-3911-7109

河村 文夫 先生

TEL : 03-3467-2130

伊東 充 先生

TEL : 03-3782-1502

實吉 幹夫 先生

TEL : 03-3451-0912

河合 孝允 先生

TEL : 03-3828-4141

高橋 英夫 先生

TEL : 03-3658-4111

仁木 健嗣 先生

TEL : 03-3624-2666

伊庭 崇 先生

TEL : 03-3786-1711

今田 正利 先生

TEL : 03-6303-7683

高橋 公三子 先生

TEL : 03-3847-2201

二松学舎大学付属高等学校

東京都千代田区九段南2-1-32

村田女子高等学校

東京都文京区本駒込2-29-1

自由学園（中等部・高等部）

東京都東久留米市学園町1-8-15

京華学園

東京都文京区白山5-6-6

武蔵野大学千代田高等学院

東京都千代田区四番町11

目黒日大中学高等学校

東京都目黒区目黒1-6-15

共栄学園中学高等学校

東京都葛飾区お花茶屋2-6-1

中村中学・高等学校

東京都江東区清澄2-3-15

文教大学付属中学高等学校

東京都品川区旗の台3-2-17

国際高等専門学校

石川県金沢市久安2-270

車田 忠継 先生

TEL : 03-3261-9288

遠藤 賢 先生

TEL : 03-5940-4455

更科 幸一 先生

TEL : 042-422-3111

今野 巍 先生

TEL : 03-3941-6493

岡田 孝子 先生

TEL : 03-3263-6551

天野 正貴 先生

TEL : 03-3492-3388

松宮 博 先生

TEL : 03-3601-7136

富田 義道 先生

TEL : 03-3642-8041

神戸 航 先生

TEL : 03-3783-5511

松尾 多郎 先生

TEL : 076-248-1080

(株)私塾界

東京都豊島区東池袋1-39-1三善ビル3F

山田 未知之 様

TEL : 03-3987-0838

デザインオフィスズスキ

千葉県柏市柏687-6

鈴木 学 様

TEL : 04-7164-8276

(株)POPER

東京都中央区日本橋茅場町1-13-21-4F

栗原 慎吾 様

TEL : 03-6265-0951

(株)塾と教育社

東京都千代田区飯田橋4-4-8-310

加藤 麻由美 様

TEL : 03-6265-6855

(株)ブックモールジャパン

埼玉県戸田市上戸田4-2-33 日教販戸田センター

攬上 聰 様

TEL : 048-447-7457

教育開発出版(株)

東京都杉並区下高井戸1-39-12

糸井 幸男 様

TEL : 03-3304-5291

(株)クロノクリエイト

東京都渋谷区神宮前5-52-2-2F

添田 大亮 様

TEL : 03-5468-6986

(株)声の教育社

東京都新宿区新小川町8-15

中村 千尋 様

TEL : 03-5261-5061

ソルナ(株)

東京都中央区築地2-9-4 SOLUNA BLD

森 雅人 様

TEL : 0120-934-515

アロー教育総合研究所

東京都千代田区神田小川町3-8-5F

古川 貴央 様

TEL : 03-3259-2851